

ねこが わらった

いっちゃんは、学校から さんすうの テストのとうあんを いただいて かえりました。おいしいことに 一つだけ 三かくが ついていました。その一つの三かくを、おかあさんやいもうとに 見せるのが いやでした。

（そうだ、三かくを けして、まるにかきなおしてやるう。）

いっちゃんは、けしごむで 三かくを けしはじめました。すると、「トリと いう音がしました。

（あ、だれか きたのかな。）
と、おどろいて ふりむくと、ねこのたまでした。

いっちゃんは、たまが 青いような ひかっただ目で、つくえの上の なおしかけのとうあんを 見て いるような 気が しました。

（なあに、ねこなんかに わかる 物のか。）

そう おもいましたが、もう いちど ふりむくと、たまは やっぱり こちらを じっと見つづけて います。

いっちゃん は へんな 気が して、おもわず ちよつと わらいました。すると、とたんに、たまの 白い ひげと 口のあたりが、ぴくぴくつと うちごいたように 見えました。

いっちゃん は、はつと しました。

（たまが わらった、ねこが わらった。）

いっちゃん は きみが わるくなりました。

そして、もう、三かくを まるに なおすことは できなくなりました。